

「ご家族が重い病気の治療を病院で受けることは手術や薬物の治療を受けている本人以外の「ご家族」にも大きな負担である。

負担であることは「ご家族」の持病の悪化につながり、時に「ご家族が入院し

治療過程のお札に見えた」と思った。

大事な「ご家族を見送った後は、対象喪失としての反応があること、看病が終われば日常の生活が一人暮らしに変わることなど生活が変化する。これ

# 今度は私をお願いします

なければならぬ事態になつてしまつたこともある。

二年前「ご主人が亡くなられた方が、受診した。それまでの「ご主人との長い闘病を外来担当医として、随分時間を共有してきた。一段落したので、

らの出来事は重畳して気持ちや身体に押し掛かるので、「ご半年はご自身を大事にしないといけない」と心理的ストレスの再適応尺度の考え方を伝えました。大切な方を亡くした「ご家族を対象にした研究では、風邪をひきやすく

なつたり、持病の糖尿病が悪化したり、メンタルな症状が出現することが指摘されていた。その後の研究でも心理的な継続するストレスはホルモンや免疫に影響を及ぼすことがわかつている。治療経過を一緒に回想しながら、見送ったご



家族への心療内科的な注意点を お伝えした。ご主人との治療の関係は終結したので、「以降何かありましたら」と診療を終わろうとした時、彼女が「今度は先生に私の治療をお願いします」と言った。

私はしばらく戸惑った。彼女はそれまでは高血圧症で循環器の外来に何年も通っていたが、今後の血圧のコントロールを心療内科の私の外来で継続してほしいという依頼であった。血圧のコントロールは循環器が専門

であるので、現状の循環器での治療継続の方が適切であることをお伝えしたが、彼女からの希望は変わらなかつた。帰りがけに「主人から君の血圧は自分の看病のストレスのこともあるので中野先生に診てもらおうといひねと言われました」と理由を教えてくれた。それまで治療を受けてくれた「ご主人は、心理的なストレスが持病である高血圧症に影響があるかもしれないことを理解してきていたと思った。しかも彼にとつて一番大切で、気がかりであったはずの奥さまをお願いされたことは、ちよつと専門の立場からは医者冥利に尽きると思つた。先週再診でお会いした。二年の高血圧症の経過は順調である。

（三愛病院心療内科医師  
・東邦大学医学部教授）